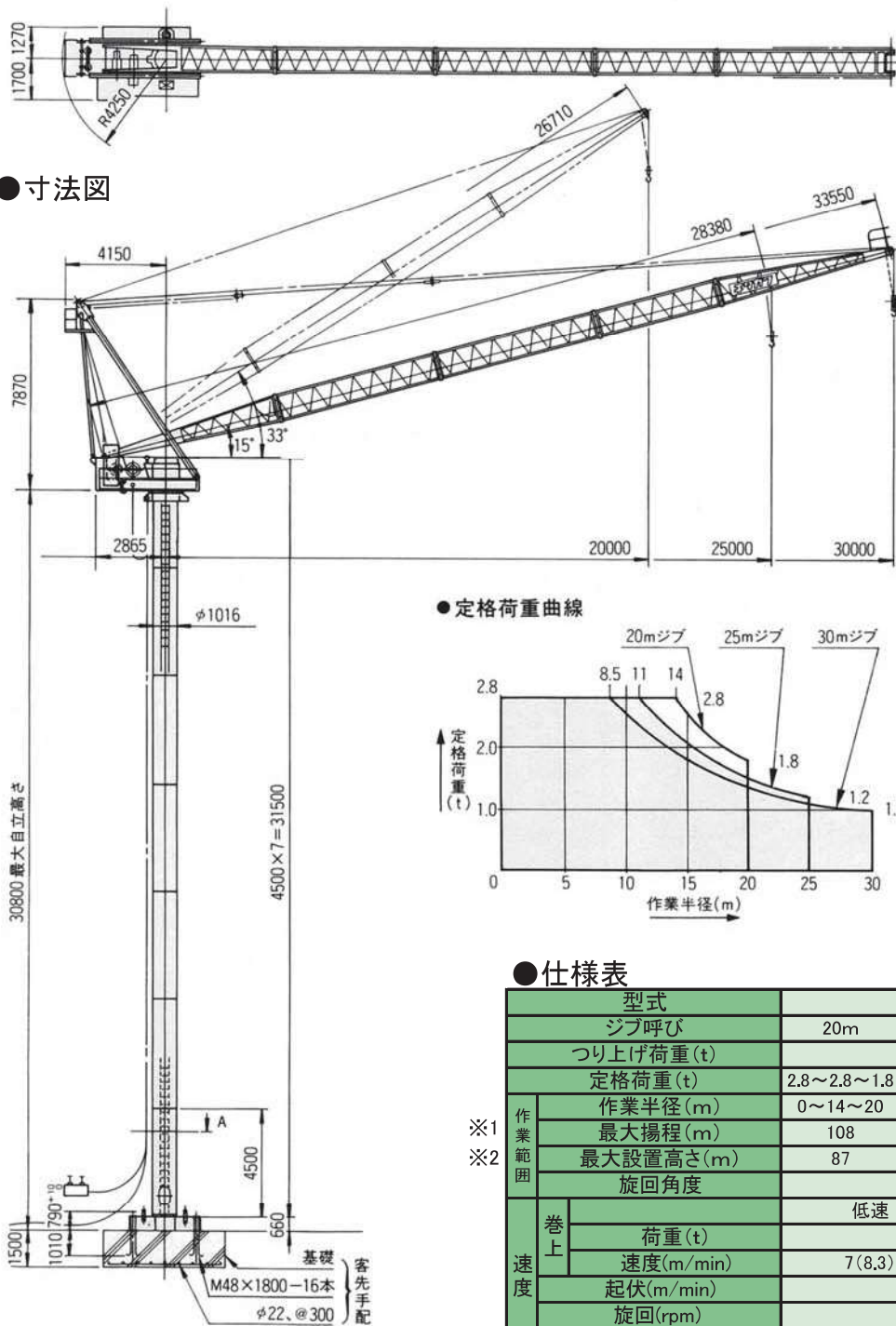
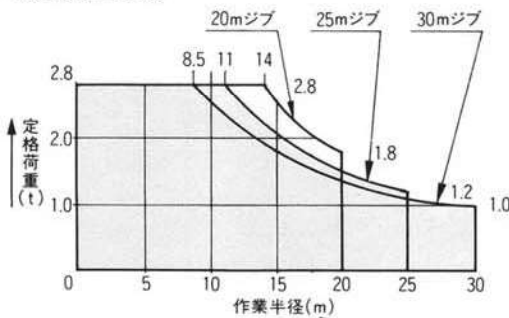


【クライミングクレーン】(JCL-030Ⅲ)

●寸法図



●定格荷重曲線



●仕様表

型式		JCL030Ⅲ		
ジブ呼び		20m	25m	30m
つり上げ荷重 (t)		2.92		
定格荷重 (t)		2.8~2.8~1.8	2.8~2.8~1.2	2.8~2.8~1.0
※1 ※2 作業範囲	作業半径 (m)	0~14~20	0~11~25	0~8.5~30
	最大揚程 (m)	108	105	100
	最大設置高さ (m)	87	84	73
旋回角度		360°		
速度	巻上	低速	高速	
		荷重 (t)	0~2.8	
	速度 (m/min)	7 (8.3)	28 (34)	
	起伏 (m/min)	10.3 (12.3)		
	旋回 (rpm)	0.57		
昇降 (m/min)	1.3 (1.6)			
電動機	巻上	20/5kw 4/16P 40%ED		
	起伏	5.5/2.75kw 4/8P 40%ED		
	旋回	2.2kw 4P 15%ED インバータ制御		
	昇降	3kw 4P 30分定格		
電源		200V 50Hz (220V 60Hz)		
昇降	方式	電動チェーンブロック方式		
	ストローク (m)	4.5m		
安全装置		モーメントリミッタ 巻過防止装置 起伏制限装置 旋回制限装置 本体落下防止装置		
最大自立高さ (m)		30.8m		
記事		() 内は60Hz時の速度を示す 操作は無線操縦で行う		
※3	クレーン群	Ⅱ		

●電源仕様

3φ3W AC220/200V ±10% 60/50Hz

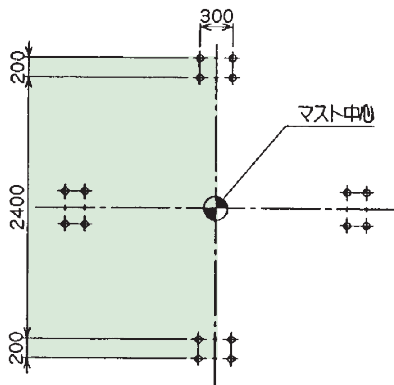
設備容量	電源容量
33.2kw	45KVA

※ 左記電源容量は、商用電源によるものです。
発電機の場合は3倍程度の余裕を持たせて下さい。
旋回にインバータ制御を採用していますので、必ず
電圧変動を±10%以内に保って下さい。

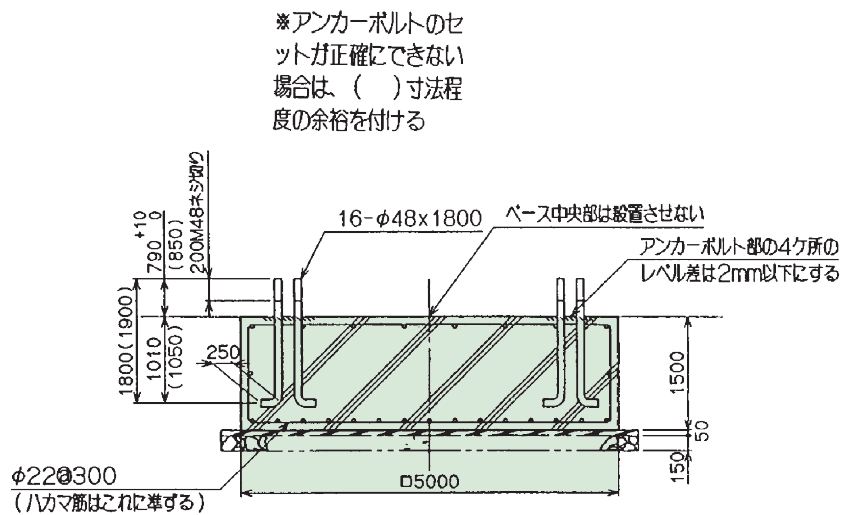
基礎について

下図を参考に基礎、アンカーボルトを決定のこと
 大きさ、強度が不足すると、クレーンの転倒につながります
 最大自立高さに対しては、下図の基礎が必要です。

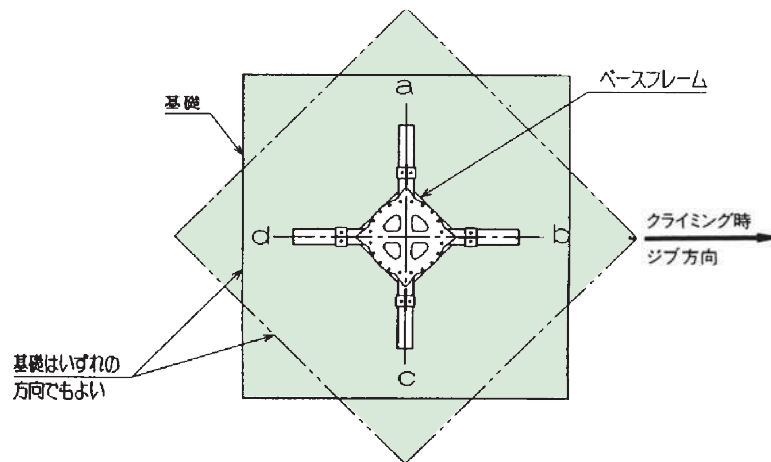
(基礎下面の地耐力は、長期 10 t/m²以上、短期で 20 t/m²以上とする。)



アンカー配置図

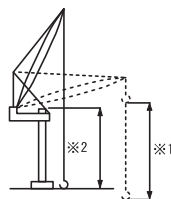


最大自立高さに対する基礎寸法



基礎とベースフレームの方向

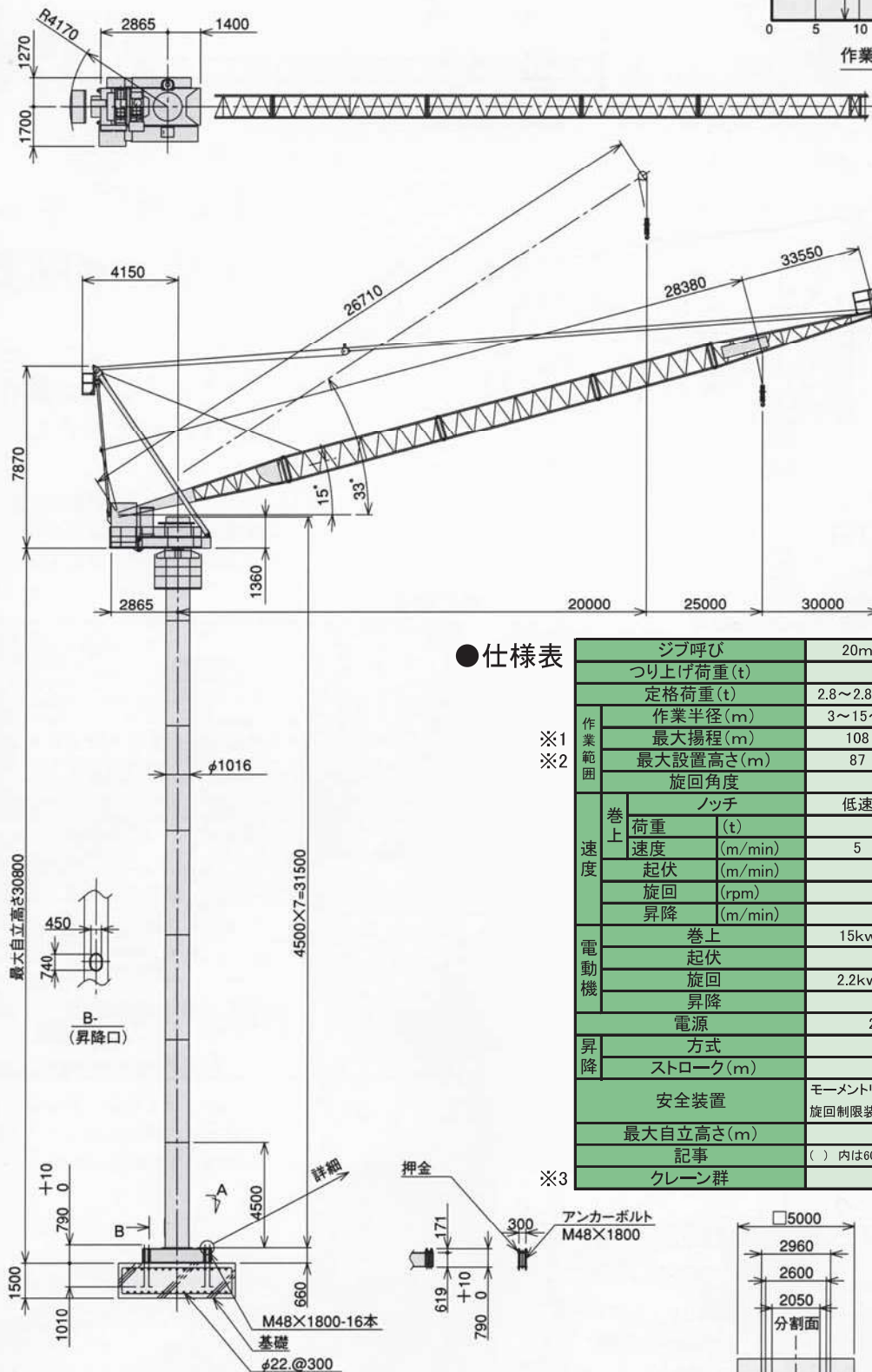
- ※1: 最大作業半径時の、フックブロック最大移動距離(垂直方向)
 (最大揚程を設置高さとした場合、ジブを起こした時、フックブロックが作業面まで届かなくなります)
- ※2: ジブ角度に関係なく、フックブロックが作業面まで届く最大高さ
 (マスト上面までの高さ)
- ※3: 本クレーンは『常時最大定格荷重』
 『連続使用』のクレーンではありません。



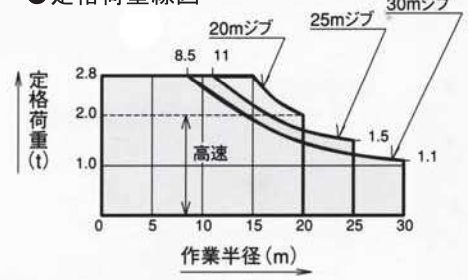
電源ケーブル	30 m マデ	38 × 4C
	45 m マデ	60 × 4C
	70 m マデ	100 × 4C

【クライミングクレーン】(JCL030Ⅳ)

●寸法図



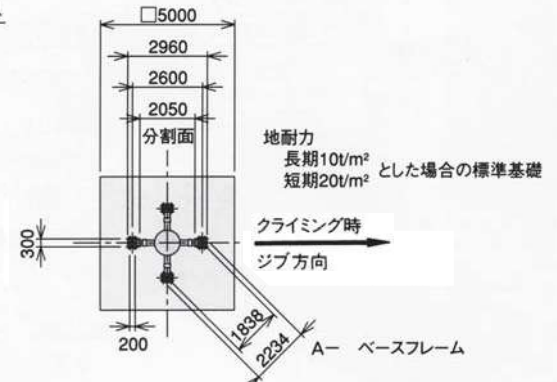
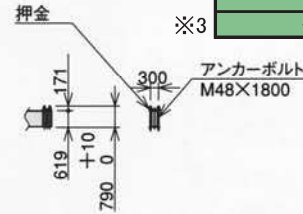
●定格荷重線図



●仕様表

ジブ呼び		20m	25m	30m	
つり上げ荷重 (t)		2.92			
定格荷重 (t)		2.8~2.8~2	2.8~2.8~1.5	2.8~2.8~1.1	
※1 ※2 作業範囲	作業半径 (m)	3~15~20	3~11~25	3~8.5~30	
	最大揚程 (m)	108	105	100	
	最大設置高さ (m)	87	84	73	
	旋回角度	360°			
速度	ノッチ				
	荷重 (t)	低速	中速	高速	
	速度 (m/min)	0~2.8			2
	起伏 (m/min)	5	14	26	35
	旋回 (rpm)	11.8 (14.1)			
電動機	昇降 (m/min)	0.57			
	巻上	15kw 4P 40%ED インバータ制御			2
	起伏	5.5/2.8kw 4/8P 40%ED			
昇降	旋回	2.2kw 4P 15%ED インバータ制御			
	昇降	4.6kw 4P 30分定格			
電源		200V 50Hz (220V 60Hz)			
方式		電動チェーンブロック			
ストローク (m)		4.5			
安全装置		モーメントリミッタ 巻過防止装置 起伏制限装置 旋回制限装置 本体落下防止装置			
最大自立高さ (m)		30.8			
記事		() 内は60Hz時の速度を示す 操作は無線操縦で行う			
クレーン群		Ⅱ			

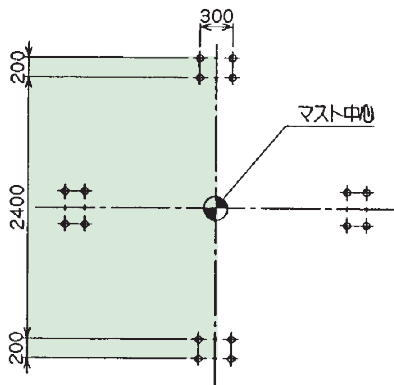
※3



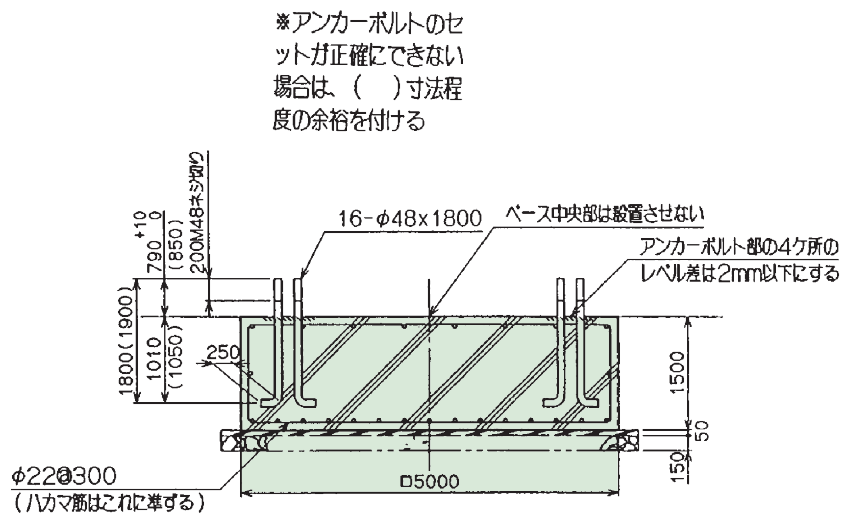
基礎について

下図を参考に基礎、アンカーボルトを決定のこと
 大きさ、強度が不足すると、クレーンの転倒につながります
 最大自立高さに対しては、下図の基礎が必要です。

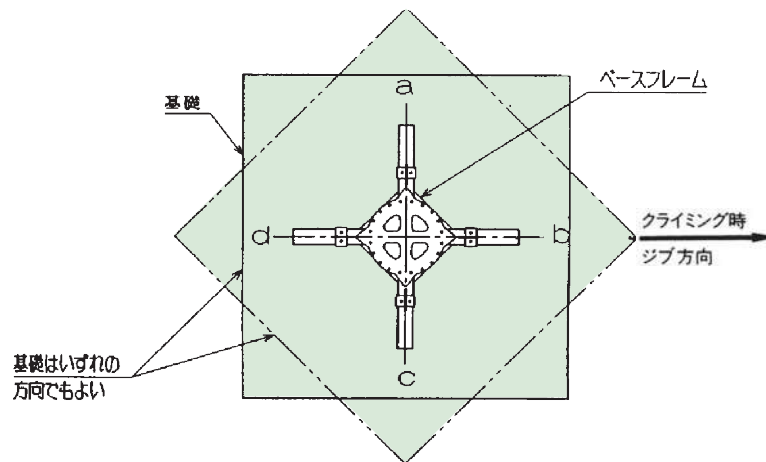
(基礎下面の地耐力は、長期 100KN/m²以上、短期で 200KN/m²以上とする。)



アンカー配置図

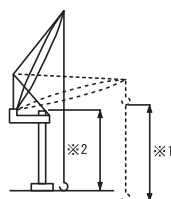


最大自立高さに対する基礎寸法



基礎とベースフレームの方向

- ※1: 最大作業半径時の、フックブロック最大移動距離(垂直方向)
 (最大揚程を設置高さとした場合、ジブを起こした時、フックブロックが作業面まで届かなくなります)
- ※2: ジブ角度に関係なく、フックブロックが作業面まで届く最大高さ(マスト上面までの高さ)
- ※3: 本クレーンは『常時最大定格荷重』『連続使用』のクレーンではありません。



電源ケーブル	45mマデ	38 × 4C
	75mマデ	60 × 4C
	110mマデ	100 × 4C